



年頭挨拶

一般社団法人秋田県貿易促進協会
会長 齊藤健悦

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、安倍政権の経済再生に向けた様々な施策が打ち出され、我が国経済も緩やかな回復傾向を示したほか、2020年のオリンピック・パラリンピックの東京開催決定は、将来に明るい希望を持つことができた年でありました。一方、県内の経済においては、まだまだ回復の実感に乏しい状況となっておりますが、秋田港の2013年コンテナ貨物取扱量が年間7万本に達する見込みで、3年連続の過去最高更新が確実となるなど貿易拡大におけるまさに明るい話題であります。



今年、デフレ脱却と経済再生の道筋を確実にするための正念場の年であり、その成否を握るのは「成長戦略」における我々中小企業の実行力に懸かっております。こうした中、当協会は設立10周年という節目を迎える年となりました。設立から10年、貿易を取り巻く環境は、国際経済の変遷とともに大きく変化してまいりましたが、諸先輩には厳しい状況の中でしっかりとした実績を残して頂きました。私共は、こうした先人の足跡を糧に、更なる10年を見据え、これまで培ってきた海外取引ルートの強化に努め、商談会・フェアの開催、あるいは新たな国や地域との取引の可能性を探るミッションを派遣するなど、会員ニーズに即した事業を実施するなど、企業の海外取引拡充に向け会員皆様と一丸となって取り組んでまいりたいと意を新たにしているところであります。

平成26年が節目の年にふさわしい、力強い活動の一年になりますよう、皆様の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

目次:

- 年頭挨拶 1
- バンコク「秋田フェア」で県産食品をPR
- タイ・インドネシア商談 2
- 会ミッション
- シンガポール食品フェアへの参加
- 香港での秋田県産米 3
- 販売促進活動
- 知事へ要望書提出
- 延邊朝鮮族自治州 4
- 貿易・観光セミナー&ビジネス交流会
- ジェットロ大山所長より
- 協会の今後の予定

バンコク「秋田フェア」で県産食品をPR



秋田フェアの様子

10月17日から30日までの2週間、タイ・バンコク伊勢丹において、当協会々員10社から横手焼きそば、稲庭うどん、りんご、梨、かりんとうまんじゅう、米菓など51品を出展し、県産食品のPRと試食販売を行いました。

このフェアは、10月22日～26日の期間で実施された秋田県知事を団長とする「バンコク商談ミッション」に併せ、秋田単独フェアとして昨年に引続き開催したものです。

今回は、「味噌たんぼ」の実演販売を新たに加えた他、横手焼きそば・かりんとうまんじゅうの実演販売、稲庭うどん・比内地鶏ラーメンの試食販売を行い、フェアを盛り上げました。

その結果、りんご(トキ)を4日目で完売し、早生ふじも売上好調だったことから急遽追加発注で補充した他、あきたこまち・梨がフェア期間内に完売、昨年予想外に好評でフェア期間途中で完売したかりんとうまんじゅうも根強い人気で完売、さらに稲庭うどんについては、饅頭のつゆとともに昨年を上回る売れ行き

でした。バンコクでの秋田フェアは、23年の「全国うまいものフェア」への参加から三年目の開催となり、県産食品もバンコクの消費者に着実に浸透しつつあります。

昨年、今年と輸出数量は同じ位でありましたが、完売商品が多く出たことはこれを裏付けるもので、定番商品の増加にも繋がっており、県産品のPRという点では一応の成果が感じられました。

一方、これまで人気が高く、フェアの目玉であった横手焼きそばについては、売価が高めに設定されたこともあって、昨年を大幅に下回る結果となり、いかに人気商品といえども消費者の購買意欲には適正な価格設定が重要な要素であるという教訓も大きな成果と受けとめております。

今回のフェアを含めこれまでの実績により、今後のタイ王国での県産食品の販路拡大には十分な手応えを確信いたしました。



佐竹知事と横手焼きそば実演販売の様子

タイ・インドネシア商談会ミッション



タイ関係機関との調印式

10月22日から30日の9日間、秋田県・北都銀行・当協会の共催で、北都銀行とカシコン銀行、バンクネガラインドネシア銀行との提携を活用し、佐竹知事を団長とする総勢約80名のタイ・インドネシア商談会ミッションが実施されました。近年ASEANに対する関心が高まる一方、本ミッションは秋田県の海外市場攻略の大きな足がかりとなりました。タイの商談会では、北都銀行と提携先のカシコン銀行が共催し選定したタイ企業計11社と秋田の参加企業6社との間で44件の商談が行われました。結果、8件の成約と継続交渉2件の成果がありました。また、昨年に引き続きバンコク秋田県人会との交流会が盛大に開催され、多くの方々が一層の親睦を深めることができました。

さらに、今回の秋田県とタイ政府工業省、フィデアホールディングスとBOI（タイ政府投資委員会）との業務提携により、タイと秋田双方の今後一層の相互発展が期待されます。

一方のインドネシアは、2億4千万の人口を抱えつつ、40歳未満の人口が全体の60%を超え、活力ある労働力と購買力の旺盛な内需市場が期待できる国です。勤勉で親日的な国民性でなおかつ日本人に対するリスペクトが高く、日本ブランドに強い信頼を持つ国でもあります。在インドネシア日本企業との交流会や、スナヤンスクエアの視察、北都銀行業務提携先のバンクネガラインドネシア銀行表敬訪問や各種セミナーに参加した結果、ビジネスチャンスは大いにあったと感じました。

今後も、県内企業のニーズを把握したうえで銀行や県とタイアップして、より一層きめ細かな支援策の展開を決意したミッションでした。



タイでの商談会

シンガポール食品フェアへの参加

シンガポールにおける県産品販路拡大を目指すため、平成25年11月29日から12月9日までの11日間伊勢丹シンガポールで開催された“東北フェア”に参加しました。本県からは5社が出店し、日本酒、稲庭うどんなど28品目の実演・試食販売が行なわれました。会場となった同スコッツ店は商業地域の中心部にあり特に週末は売場の通行が困難になるほど混雑します。顧客は華人をはじめとした中国系が中心ですが、マレー系、インド、欧米、韓国人など多種多様な人種が来店し、もちろん現地在住の日本人も数多く来店します。

同フェアは毎年開催されており今年で5回目となりました。県産品では継続して出品している“日本酒”“稲庭うどん”“ぶどうジュース”が順調に売上げを

おける県産品PRとしても今後良い結果に繋がると考えます。

シンガポールは多様性、新奇性に対して寛容な国民性であることから独自の商品などでも比較的売り込みやすい地域だといえますが、その一方では世界中から様々な商品が入ってくるため非常に競争の激しい市場ともいえます。当協会としてはシンガポールをはじめとした東南アジア諸国への進出を目指す方々へのサポートをさらに強化していくことが必要と考え、フェアをはじめとした販路拡大事業の実施を引き続き検討していくとともに有力パイヤーの発掘や現地とのネットワークの強化に一層力を注いでまいります。



フェアの様子(ぶどうジュース)



フェアの様子(かりんとうまんじゅう)



全体ミーティング

伸ばしており、現地固定客の定着を感じることができました。また“かりんとうまんじゅう”の実演販売はシンガポールでは初出店にもかかわらず多い日で一日1000個を売り上げるなど好評でした。これら成果は現地に

県産米販売促進プロモーション 香港スーパー2店舗で開催



試食販売の様子(TASTE)

協会会員が県内輸出業者を通じて香港に向けて輸出している県産米の販売促進プロモーションを香港のスーパー2店舗（パークンショップ TASTE、ジャスコ ライチコック店）において昨年12月13日（金）から12月15日（日）の3日間実施しました。

プロモーションでは試食販売等を行なうことにより県産米の品質の高さやおいしさといった魅力をPRいたしました。香港での県産米販促プロモーションは年2回（9月・12月）実施しており、今回は新米を中心としたPRとなりました。これまでは1日でスーパーマーケット3～4店舗を掛け持ちして活動していましたが、今回は2店舗に集中して1店舗における販促時間を増やすことにより効果的にPRすることができました。

TASTEでは秋田米の試食宣伝として大阪のアナゴ加工業者との提携によるアナゴ寿司に本県産のいぶり大根を合わせて来店者へ提供しました。寿司は香港でも非常に人気のある料理ですが日本産米を使用した寿司が一番おいしいという声も聞こえ大変好評でした。同行した“こまちむすめ”の試食提供も大反響となりました。また、12月13日は同店の大規模リニューアルに伴うオープニングイベントも開催されて

おり、取材にきていた多数の香港メディアに対し約30分間の時間を頂くことができたため、様々なメディアを通じて秋田米のPRをすることが出来ました。

ジャスコ ライチコック店は今回初めてプロモーションを実施する店舗でした。TASTE、ジャスコ両店とも日本から輸入された果実類が多く販売されておりました。

最近香港ではオーガニックの米・野菜が多く販売されるようになっており健康志向の強い香港人には価格が多少高い商品であっても受け入れられております。常に新しい取り組みが要求される香港ではいかに商品紹介・試食宣伝等PRをはかり、現地の人に理解してもらうかが重要となります。また、香港マーケットでは日本国内の他産地との競合が激化しており今後はさらに現地との情報交換を密にして他産地との違いをアピールする販売戦略が必要であると感じました。

継続は力なりの言葉どおり香港における販売促進プロモーションを重ね、安定的な取引に結びつけるよう努力してまいります。



こまちむすめによる秋田米PR(ジャスコ)



香港メディアによる取材(TASTE)

知事へ要望書を提出

11月28日、佐竹知事と当協会正副会長が会談し、平成26年度事業への支援強化について要望いたしました。

会員サービスの充実を基本とし、関係各位の期待に応えられるよう、なお一層、適時適切な事業に取り組んでまいります。

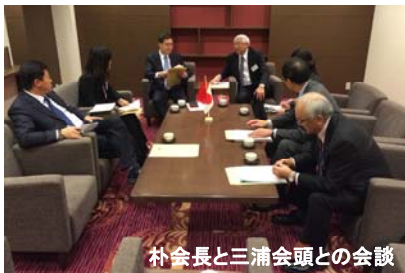


佐竹知事と齊藤会長

延邊朝鮮族自治州 貿易・観光セミナー&ビジネス交流会

平成25年12月11日秋田商工会議所主催、当協会の共催により秋田市において中国・延邊朝鮮族自治州貿易・観光セミナー&延辺・秋田ビジネス交流会が開催されました。

延邊州からは、同州商務局長で中国国際貿易促進委員会延辺支会会長の朴学洙団長以下19名の交流団の皆様をお迎えし、秋田県側は秋田商工会議所三浦会頭、秋田県産業労働部関根部長はじめ、当協会齊藤会長、大島副会長などビジネス交流会は商社等の企業から17名、貿易・観光セミナーは92名の参加となり、今後の企業交流、観光交流、新規航路の開設など物流ルートの開発等に相互に一致協力して取り組んでいくことを確認いたしました。



朴会長と三浦会頭との会談



秋田港コンテナターミナル視察



ビジネス交流会の様子

（コラム） ジェトロ秋田 大山所長よりご挨拶をいただきました



秋田に赴任して半年、伝統、独自の技術・商品力のある企業にお会いする機会に恵まれた。「強い者ではなく、変化する環境に対応できる者が生き残る」という言葉がある。企業理念・信念は貫きつつ手法は柔軟に対応する発想が必要となるだろう。海外展開が万能の解決法とは思わないが、アジア諸国を始めとした市場も見据えた戦略が選択肢の1つであることは間違いないだろう。ジェトロは企業様がスムーズな展開ができるよう各機関と連携し情報提供・支援を行う者として努力します。お気軽にご連絡ください。

日本貿易振興機構（ジェトロ）秋田貿易情報センター
所長 大山明裕

協会の今後の予定

- ▶ 伊勢丹シンガポール新春フェア
期 間：2014年1月21日～1月30日
場 所：伊勢丹シンガポール スコッツ店
出品物：米
- ▶ 台湾百貨店での秋田県産農産物販売促進活動
期 間：2014年1月30日～2月9日
場 所：台湾台北市 微風広場
出品物：米、りんご、稲庭うどん・きりたんぼ等の加工食品
- ▶ 企画委員会
会 期：2014年2月24日
場 所：秋田県商工会館
- ▶ 理事会
期 間：2014年3月17日
場 所：秋田県商工会館

一般社団法人
秋田県貿易促進協会

秋田市旭北錦町1番47号
秋田県商工会館5階
電話：018(896)7366
FAX：018(896)7367
Email：info@a-trade.or.jp

協会のホームページも
ぜひご覧ください↓
<http://www.a-trade.or.jp/>

あなたの貿易ビジネスをサポート!



一般社団法人
秋田県貿易促進協会